

平成 16 年度事業報告・収支計算書

平成16年度事業報告・平成17年度事業計画内容

代表挨拶

平成16年度各事業報告

平成16年度収支計算書（平成16年1月1日～12月31日まで）

平成17年度事業方針

平成17年度事業計画

平成17年度事業予算

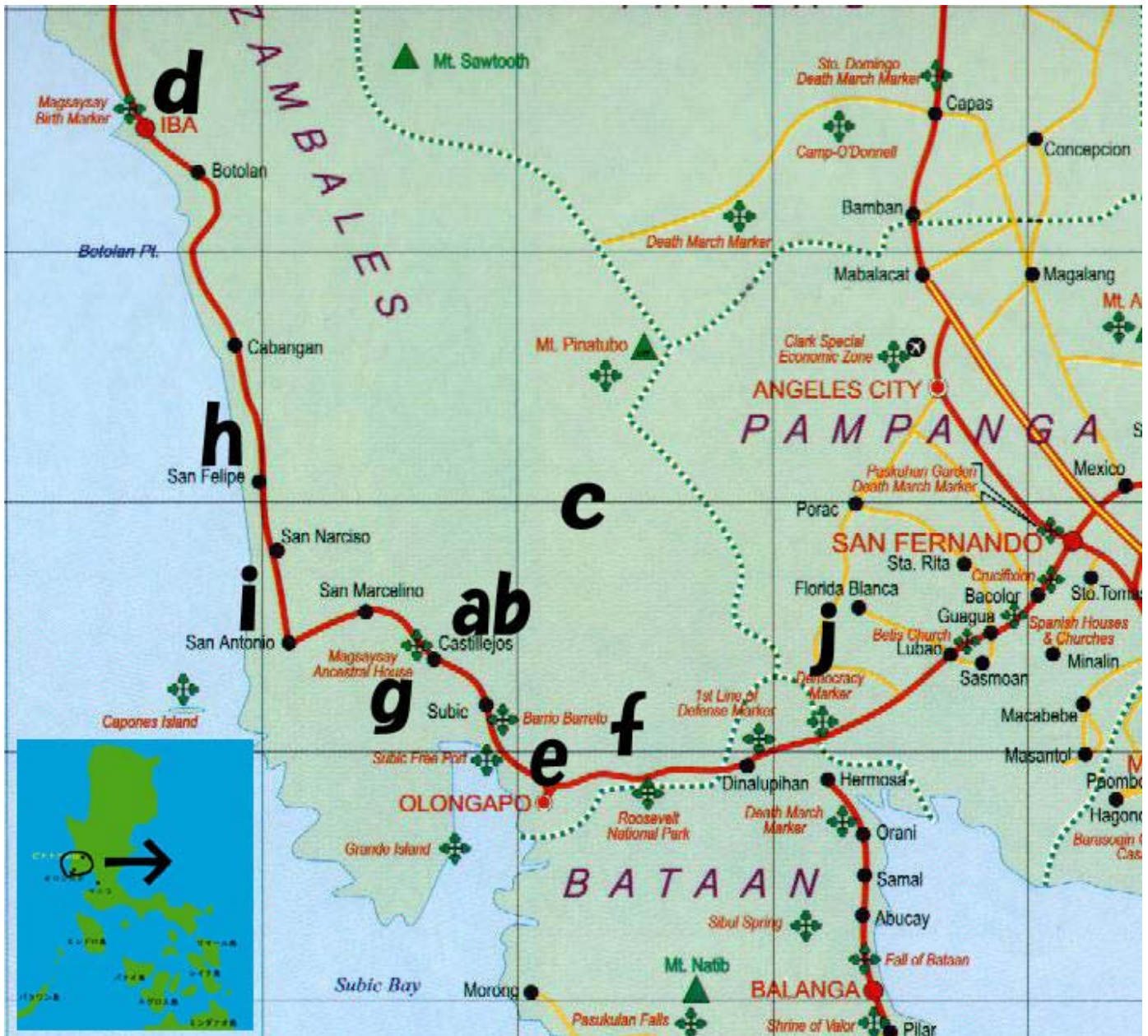
会員の方々ならびに支援者・関係者の皆様各位

平成 17 年 1 月 24 日

特定非営利活動法人 ACTION

1. 海外事業

本年度はフィリピン共和国のサンバレス州・パンパンガ州内の 10 地域において、計 19 個のプロジェクトを実施しました。



- a/ サンバレス州カスティリヤホス行政区マグサイサイ町ジャイラホーム ()
- b/ 同州カスティリヤホス行政区マグサイサイ町 ()
- c/ 同州サンマルセリーノ行政区サンタフェ町バリウエット集落 ()
- d/ 同州イバ市アムンガン町 ()
- e/ 同州オロンガポ市ホームフォーガールズ ()
- f/ 同州オロンガポ市オールドカバラン町ニニョスパグアセンター ()
- g/ 同州カスティリヤホス行政区バライバイ再定住区 ()
- h/ 同州サンフェリペ行政区サントニーニョ町 ()
- i/ 同州サンアントニオ行政区イーストディリタ町 ()
- j/ パンパンガ州フロリダブランカ行政区サンニコラス町アガペ教会 ()

* () 内の数字は後述のプロジェクト番号

発展途上国における児童関連施設改善事業

旧男子寮改修プロジェクト

(サンバレス州カスティリヤホス行政区マグサイサイ町ジャイラホーム)

昨年より継続している本プロジェクトは、ジャイラホームの旧男子寮を改修し、ゲストハウス等に利用するものです。作業は昨年度までに全体の半分程度が終了し、既に一部の利用が開始されてい



旧男子寮の内装作業の様子

が、本年 3 月には残りの作業も全て終了し、全体の利用が開始されました。この施設は、現在ではジャイラホーム支援者や ACTION のワークキャンプ参加者、教会メンバーの宿泊や、こどもたちがイベントを行う場所として利用されています。

本年度の本プロジェクト支出は 135,076 円 (62,579 ペソ) で、昨年度までとの支出合計は 2,358,705 円 (959,385 ペソ) となっています。また、次年度以降もキッチンや洗濯機置き場等の改築を行うことが計画されています。

パキュット基金

***この基金は有志で行って入る為当会の本来会計には入っておりません。**

(サンバレス州カスティリヤホス行政区マグサイサイ町ジャイラホーム)

ジャイラホームはその運営の多くを寄附に頼っているため、寄附の増減や振込みの遅れ、計画外の緊急時の支出等が運営に大きな影響を与えている状況です。そこで、このような運営上の問題発生時に、施設のこども達の生活を少しでも支えていくことを目的として、本基金が 7 月に設立されました。毎月発行するジャイラホームのこども達の生活を紹介したニュースレターの購読料や、活動に賛同してくれた方からの寄附金が本基金の財源となり、当会職員と、ジャイラホームの職員との話し合いを踏まえ、必要時にホームへの寄附を実施しています。

本年は、他のジャイラホーム支援団体の諸事情により、寄附金の振込みが遅れ、職員の人件費やこども達の生活費等に影響が出たことから、12 月に本基金よりジャイラホームのこどもたちの薬代、遠足代、試験受験料、食費へ 46,702 円 (21,621.4 ペソ) の運用を行いました。

その他ジャイラホーム施設改善プロジェクト

(サンバレス州カスティリヤホス行政区マグサイサイ町ジャイラホーム)

上記 2 つのプロジェクトに加え、本年度は、洗濯機のモーターの購入(10,862 円)、洗濯機修理(14,321 円)、昨年日本より寄附したコピー機の修理(3,285 円)、オフィスのイス 6 脚の購入(3,263 円)、スタディツアーに参加して下さった松元重慧様より頂いた寄附金による第 4 コテージへ洗濯機の設置(51,445 円)等もジャイラホームの施設改善を目的として実施しました。

ホームフォーガールズ改修プロジェクト

(サンバレス州オロンガボ市ホームフォーガールズ)

本プロジェクトは、虐待された少女達を保護する政府施設ホームフォーガールズの設備の改善を目的とするものです。施設の老朽化から、雨季の雨漏り等の問題が見られたため、屋根と天井を中心とする改修作業を2月下旬より開始しました。計画では台所とアクティビティルームの天井部分の改修のみを



ホームフォーガールズ施設の外観

予定していましたが、作業工程中に桁が施設内の広範囲に渡って腐敗している事が分かったことや、水道パイプの配管やトイレのドアも激しく老朽化していたことから、これらに加え、子どもたちの部屋のトイレ、職員の部屋の天井部分の改修、水道パイプ配管の補修等を実施しました。これらの計画外の作業は、後述の扇風機設置プロジェクト予算の一部を運用して実施しました。作業は雨季が本格化する前に無事に終了し、事業費は、277,986 円(123,969 ペソ)でした。

ホームフォーガールズ扇風機設置プロジェクト

(サンバレス州オロンガボ市ホームフォーガールズ)

上述の改修プロジェクトに続いて実施されたのが本プロジェクトです。改修事業が行われた天井に、4月に新たに9台の扇風機を設置しました。計画時には14台の機材を新たに購入する予定でしたが、既存の機材で修理して使用可能なものもあったため、新規では9台の購入となりました。



新規に設置した扇風機

本プロジェクト支出 42,528 円(18,570 ペソ)は、ジャイラホームワークキャンプの参加者達がフリーマーケットを行ってご寄附くださった売上金から運用させていただきました。寄附自体は昨年度頂いたものですが、上述の改修作業後に実施する計画であったため、実際の作業の実施は本年度となりました。このご寄附の内、13,532 円(5,909 ペソ)を上述の改修事業、28,996 円(12,665 ペソ)を本プロジェクトに運用させていただきました。尚、ホームフォーガールズは財政上の理由等から他施設との合併が行われ、これまで施設にいた子どもたちは、親類の下への帰省やパンパンガ州の施設への移動となりました。今後の本施設は、フィリピンの社会福祉開発省のソーシャルワーカーが滞在し、セミナーの実施やストリートチルドレン等問題を抱える子どもたちの受け入れ所といった形で新たに運営されていきます。

ニニョスパグアセンター増築プロジェクト

(サンバレス州オロンガボ市オールドカバラン町ニニョスパグアセンター)

ニニョスパグアセンターはフィリピンのNGOが運営する聾啞者施設で、様々な障害を抱える青少年へのマッサージや楽器演奏等職業訓練、障害についての理解を深めるための生徒親族へのセミナー、口蓋裂や水頭症への医療サービス等の活動を実施しています。ACTIONでは以前から、このセンターに対して、FAXやぬいぐるみの寄附、施設内装の改修等を実施してきました。また、ワークキャンプ参加者もたびたび訪問し、参加者がフィリピンの障害について学ぶ機会を設けてきました。

このセンターでは、職業訓練の実施中は生徒がセンターに寝泊りしていますが、施設の老朽化が激しく、改修の必要が生じていました。また最近では、障害を持っているが故に親に遺棄されたり虐待を受けた



新たに設置したこども部屋の様子

りしたこども達の保護や、耳が不自由な青少年への手話のセミナー等の新たな活動も開始しているため、増築の必要も生じていました。そこで、本年はセンターの改修及び増築への協力を実施しました。8月より実施したこの作業により、これまで一緒だった男女の部屋を分け、新たにこどものため部屋の設置、楽器を収納するためのキャビネットの設置、台所の床のセメント化を実施しました。事業費は172,800円(80,000ペソ)で、また11月には生徒達のためにマットレス20枚(37,810円)の寄附を実施しました。

薬草によるアエタ族の初期治療手段確立プロジェクト

(サンバレス州サンマルセリーノ行政区サンタフェ町バリウエット集落)

アエタ族が元来利用してきた薬草を主な手段として、バリウエット集落での初期治療手段を確立することを目的とした本プロジェクトは本年度で5カ年計画の4年目を終了しました。本年度は、これまでに設置した薬草園・薬樹園、医療講習会で指導した保健衛生知識等を利用し、集落の女性組織 SAKAKA(Samahang Katutubo parasa Kalusugan=先住民族健康組合)が今後も初期治療を実施していくことを可能とするための持続性の確保に重点を置いて活動を実施しました。具体的な活動は下記の4つです。



ファシリテーターによる SAKAKA メンバーへのトレーニングの様子

1. 薬草・薬樹園の維持と引継ぎ…昨年度までに設置してきた園での草抜き・水遣り・フェンスと苗床補修等の継続管理実施。9月までは現場管理人や作業員を雇用して作業を実施してきたが、10月以降は SAKAKA に園の引継ぎを行い、現在は彼女達が交代で園の維持を行っている。
2. 自己資金確保の取り組み…SAKAKA 引継ぎ後に活動を継続していく運営資金の確保を目的として薬草を原料とする石鹸とバナナの販売を実施。作成指導や会計トレーニング、販売許可の取得に向けた行政との調整等を実施。特に石鹸の作成はマニラや近隣市場での販売で多くの収益を上げており、自己資金の確保に加え、活動の核となり SAKAKA メンバーの意識化に貢献している。
3. 組織の意思決定のための取り組み…SAKAKA が今後初期治療実践の主体者となるためのリーダーシップや組織運営についてのトレーニングを実施。昨年までは当会スタッフによるトレーニングを実施していたが、SAKAKA メンバーに内容を上手く伝えにくいという課題が見られていた。しかし、本年は外部ファシリテーターに委託して実施したことで、SAKAKA メンバーの理解度にも大きな向上が見られている。
4. SAKAKA をモデルとする他集落での初期治療普及…昨年度小薬草園を設置した内の6集落で SAKAKA をモデルとした組織作りと石鹸作成指導を実施。6集落のヘルスワーカーが中心となり、それぞれ女性グループが発足して石鹸作成を中心とする活動を開始している。

本年度のこれらの活動により、徐々に当会から SAKAKA への引継ぎの準備が進んでいる状況です。計画ではトレーニングを除く他の全活動を本年10月より SAKAKA に引継ぎ、当会はフォローアップを担当する予定でしたが、今後の活動や資金確保の核となるハーブ石鹸の販売許可の取得が計画より遅れたため、薬草・薬樹園の管理活動のみを本年度引き継ぎました。

また、本年はこれまで任意団体であった SAKAKA をフィリピンの生活協同組合に登録しました。これにより、現在の SAKAKA は貿易産業省や科学技術省等フィリピンの政府機関との関係も生まれつつあり、主にハーブ石鹸の品質向上や販売許可の取得に関しての協力が行われています。その他にも、本年度から毎月実施したリーダーシップ・組織運営トレーニングにより、SAKAKA メンバーの意識化に向上が見られ、これまで参加することの無かったメンバーの増加や、自主的な園の管理活動開始等の成果が見られています。

本プロジェクトは平成14年度(平成14年4月～平成15年3月、1,200千円)と平成15年度(平成15年4月～平成16年3月、838千円)の国際開発救援財団の民間海外活動に対する助成金を頂いて実施しま

した。

ヘルスセンター建設プロジェクト

(サンバレス州サンフェリベ行政区サントニーニョ町)



フィリピンの各町(バランガイ)にはバランガイヘルスワーカーと呼ばれる保健婦が配備され、各町での様々な医療活動を実施していますが、サントニーニョ町には専用のヘルスセンターの建物が無く、町内ホールの一部をヘルスセンターとしても利用していました。しかし、会議等で施設が利用されている時は、患者がヘルスセンターを利用できない、医療具が散乱するという問題があったため、本プロジェクトが計画されました。5月から町内ホールに隣接してヘルスセンターの建設作業が行われ、7月中旬より町内住民の利用が開始

されています。サントニーニョは海沿いの町であるため、病院や市場への道が、雨季の間は洪水で通行止めになる事が度々あります。しかし、このセンター設置により、洪水時でも問題なく町内において無料で診断を受ける事が可能となりました。政府に派遣された常駐のヘルスワーカーと毎週1回訪問する助産婦により、現在では新たに妊婦の定期健診や家族計画の相談、避妊具の配布等も行われています。本プロジェクトは西日本新聞旅行社と共同で実施したスタディツアー参加者の皆様から頂いたご寄附で実施したものです。費用は140,320円(64,035ペソ)でした。

バランガイプラザ改修プロジェクト

(サンバレス州カスティリヤホス行政区マグサイサイ町)

本プロジェクトは、ジャイラホームのあるマグサイサイ町の町内ホールの改修を行ったものです。具体的に、公共トイレの設置と、町内の女性グループがライブリフッドの一環として行っているキャンディーの作成を衛生的な環境で行うためのホールへの網戸や天井の設置と塗装を実施しました。

作業は8月に実施され、ジャイラホームのワークキャンプ参加者がマグサイサイ町内の家庭にホームステイを行い、改修作業に参加した他、地域の人たちとの文化交流も実施しました。事業費は、203,684円(92,165ペソ)でした。



町内ホール改修作業の様子

先住民族のための果樹植林技術指導(21世紀の森プロジェクト)

(サンバレス州サンマルセリーノ行政区サンタフェ町バリウエット集落)

緑化による所得向上を目的として、アエタ族の青少年組織 KAB(Kabataan Action ng Baliwet=バリウェット青年の行動)への技術指導を実施し、3.5 ヘクタールの果樹園の管理を行う本プロジェクトは平成 11 年からの継続事業で、本年度で 5 力年計画の 4 年目を終了しました。果樹園の収穫を運用し、今後 KAB が園の管理や他の様々な活動を実施していくことが期待されている本プロジェクトでは、本年度はこの KAB の持続性の強化を重点項目として、下記の 3 つの活動を実施しました。

1. 果樹園の継続管理及び KAB への植林技術指導…これまでに設置した 3.5 ヘクタール果樹園(マンゴー・バナナ・カシューナッツ・ココナッツ)の管理を通して KAB メンバーへの技術指導を実施。本年度は数種の野菜をエリアに植えつけて栽培指導を実施した他、水牛による耕作の指導を実施。農林スタッフ 2 名が指導し、KAB メンバー 6 名が交代で毎月の現場管理人として管理を実施。
2. 収穫販売と運用…昨年度までに植えつけたバナナと、本年度植えつけた野菜の豆・サツマイモ等を収穫し、KAB メンバーによって市場や近隣の集落で販売。
3. リーダーシップ・組織運営・会計トレーニング…SAKAKA と同様に外部ファシリテーターに委託して毎月一回のトレーニングを実施。これまでの当会スタッフのみのトレーニングに比べ、分かりやすい内容での指導により、KAB の理解度や意識化に向上が見られた。

昨年度までは果樹園エリアの拡大を毎年行ってきましたが、本年度は既存のエリアを利用したの収益増加、今後 KAB への引継ぎを行うことを念頭においての管理費用の削減等を目的として、野菜の植え付けを主な作業内容として実施しました。新たに水牛や農具を購入し、農林スタッフ 2 名によって KAB メンバーへの栽培指導を実施してきました。これらの指導により、KAB メンバーの技術取得に向上が見られたのは本年度の成果の一つです。また、本年度から待望していた収穫が始ま



豆の収穫を行う KAB メンバー

ったことで、KAB メンバーの関心を高め、これまで関わらなかった新たなメンバーの本プロジェクトへの参加を促すという変化も見られるようになりました。しかし、豆や瓜等は計画通りの収穫を得られましたが、天候や土壌の影響で、バナナやサツマイモ等に関しては計画していた程の収穫には至らないという課題が見られています。今後 KAB への引継ぎを行っていくためには、園の管理資金を確保する必要があり、またより多くの KAB メンバーの意識化を図るためにも、収穫の向上は不可欠な課題です。そこで、現在は堆肥の混入や収穫の高い野菜の植え付け等の対応を行っています。また、新たにエリア外の活動で山羊の飼育等も計画しており、収益の増加を図ります。また、来年度 KAB への引継ぎを実施した場合、その持続性が十分でないという課題があることから、当初の計画を変更して 1 年間の延長を行い、この収益の増加を図ることを新たに計画しています。

また、本年度から毎月実施したリーダーシップ・組織運営・会計トレーニングですが、これにより KAB の中心となる青年メンバーの理解度が向上している様子が見られ、自主的なミーティングやプランニングの増加、管理活動の充実化等の成果につながりました。

本プロジェクトは平成 14 年度(平成 14 年 7 月～平成 15 年 6 月、861 千円)、平成 15 年度(平成 15 年 7 月～平成 16 年 6 月、1,055 千円)の郵政公社の国際ボランティア貯金配分金を頂いて実施しました。

アエタ族の薬樹栽培技術取得のためのモデルファーム設置プロジェクト

(サンパレス州サンマルセリーノ行政区サンタフェ町バリウエット・バナバ・ブアグ集落)

本年度 10 月から新たに開始した本プロジェクトは、火山灰でも育ち、販路が確保しやすいサンボン・ラグンディ・チャングバット等の薬樹栽培をアエタ族の新たな生業として普及し、持続的な生業の確保とそれに伴う所得の向上を目的とするものです。本年より 3 カ年計画で開始し、モデルファームの設置と管理、住民への栽培技術指導、販路の確保の 3 つを主な活動として実施していきます。

本年 10 月から来年度 10 月までは、主にモデルファームとなる 2 ヘクタールの園の設置(水道タンク・スプリンクラー・苗床・堆肥小屋・フェンス・スタッフハウス・乾燥施設含む)とファームでの上記 3 種の薬樹栽培、住民への栽培指導を行う計画で、現在はファーム内の水道タンクの設置と薬樹の苗木の栽培を開始している状況です。また、来年度の住民間での栽培を開始するためのオリエンテーションや、販路を確保するための企業とのミーティング等を実施しました。本プロジェクトは平成 15 年度(平成 15 年 10 月～平成 16 年 10 月、7,113,088 円)の外務省の日本 NGO 支援無償資金協力を頂いて実施しました。



モデルファーム起工式の様子

幼稚園建設プロジェクト

(サンバレス州カスティリヤホス行政区マグサイサイ町ジャイラホーム)

本プロジェクトは、ジャイラホーム及び近隣のこどもたちへの教育の普及を目的として新たに幼稚園の建物を設置するもので、2月より作業が開始されました。来年度の使用開始を目標に現在も建設作業が行われており、現在までに壁や電気配線、屋根、床等が完成している状況です。現在、ジャイラホームの運営する幼稚園には41名の生徒が通っていますが、新校舎が完成する来年度にはさらに多くの生徒達が通う事が見込まれています。本年度の事業費は2,211,931円(1,018,762ペソ)でした。

楽器購入支援プロジェクト

(サンバレス州カスティリヤホス行政区マグサイサイ町ジャイラホーム)

ジャイラホームのこどもたちの課外授業に利用することを目的として、バンドリアやオクタビアといった弦楽器の購入を実施しました。楽器15個を購入してこどもたちへの演奏指導も行われ、現在はイベントの際にこどもたちの出し物として発表されている様子が窺えます。事業費は当会からの131,400円(60,000ペソ)に加え、西日本新聞旅行社と共同で実施したスタディツアー参加者の皆様から新たな楽器と指導者人件費に41,000ペソ、ワークキャンプ参加者から9,012ペソのご寄附を頂いています。



演奏会を行うジャイラホームのこどもたち

コミュニティホール建設プロジェクト

(サンバレス州イバ市アムンガン町)



建設作業の進むコミュニティーセンター

本プロジェクトは地域の住民の職業訓練や学習の場として利用されることを目的として行われているもので、昨年度からの継続プロジェクトです。作業は主にワークキャンプを通して行われ、本年度も昨年に引き続き、第3回、第4回ホームステイワークキャンプが実施されました。第3回キャンプは3月3日～23日に実施され7名の学生が参加、第4回キャンプは9月3日～23日に26名が参加しました。2002年2月より開始された本プロ

ジェクトは、現在までに1階部分の壁となるブロックの積み上げ、1階部分の床のセメント張り、トイレの下水タンクの設置、2階部分の床の設置などが終了し、1階部分は既に教会や、ミーティングの場として使用が開始されています。現在は来年3月に実施されるワークキャンプが始まるまで、地域の人たちにより、1階部分をデイケア・センターとして利用するための整備が行われています。全体としては2005年5月の完成を予定しています。建設費、人件費、資材運搬費等本年度の事業費は1,926,991円(835,468ペソ)です。この内の14,020ペソはイバワークキャンプ参加者からご寄附頂いたものです。予定では、'04年度に2度のワークキャンプを実施し、'05年の春に完成式を行う予定になっています。

デイケアセンター支援プロジェクト

(サンバレス州サンマルセリーノ行政区サンタフェ町バリウエット・バナバ・ブアグ集落)

バリウエット集落にデイケアセンターを新設して運営する支援プロジェクトは平成 13 年度に終了し、行政への引継ぎを行って現在に至っていますが、この教室となる建物の老朽化が激しくなったため、本年度は教室となる建物の新築を実施しました。2 月より建築作業を開始し、現地の大工や住民からの作業員、当会のワークキャンプ参加者が作業を行いました。4 月に建物が完成し、5 月に机等センターの備品を購入、6 月より利用が開始され、現在では約 20 名の生徒が利用しています。本プロジェクトは松元重慧様と三和プラント株式会社様からのご寄附を頂いて実施しました。



完成したデイケアセンター

教材購入支援・遊具設置プロジェクト

(パンパンガ州フロリダプランカ行政区サンニコラス町アガペ教会)



新規に購入したデイケアセンター教材

昨年バスケットボールコート及び遊具の設置を行ったパンアガペ教会に対し、本年度は教会が地域の住民対象に運営しているデイケアセンターへの本の購入と遊具の設置及び購入を実施しました。2 月に開始された本プロジェクトには、2 月・3 月のジャイラホームワークキャンプ参加者も作業に加わり、また教会メンバーの家庭でホームステイも行って文化交流を深めました。事業費は本購入費 32,850 円(15,000 ペソ)、遊具の設置が 54,750 円(25,000 ペソ)です。

デイケアセンター支援プロジェクト

(サンバレス州サンフェリペ行政区サントニーニョ町)

本プロジェクトは別件で設置したヘルスワーカーに隣接するデイケアセンターへのサポートを行ったものです。このセンターは昨年開設されたばかりで教室は新しいのですが、こどもたちが利用する椅子や机が不足していたため、6 月上旬の新学期開始直後に、ACTION より椅子 30 脚の寄附を行いました。現在は約 50 名のこどもたちが、午前と午後の 2 部に別れて通学しています。購入費は 3,263 円(1,470 ペソ)でした。



新しい設備の中で学ぶセンターのこどもたち

バランガイラーニングセンター支援プロジェクト

(サンバレス州サンアントニオ行政区イーストディリタ町)



購入した学習資材の贈呈の様子

本プロジェクトでは、サンアントニオ行政区のイーストディリタ町のラーニングセンターに教材購入の支援を行いました。ここイーストディリタの近くにはジャイラホームが所有する水田と養鶏場があり、その関係から町長の「地域の人々が利用できるラーニングセンターがあるのだが、本が古くまた不足している」という相談を受け、今回の寄附につながりました。

balanガイデイケアセンター支援プロジェクト

(サンバレス州カスティリヤホス行政区バライバイ再定住区)

ピナトゥボ火山の噴火による被災者のための再定住区であるバライバイでは、昨年度までにも井戸の設置、通学路の整備、コミュニティホール建設等を ACTION で実施してきました。本年はこの再定住区内のデイケアセンター5カ所に教材の購入費として、各 5,000 ペソの寄附を行いました。各センターでは、視聴覚教材として DVD プレイヤーを購入したり、遊具や文具、トイレ用のバケツやセンター敷地のフェンス設置等を行いました。

本年度も昨年度と同様に、ジャイラホームで4回、バリウェット集落で2回、イバで2回のワークキャンプを実施しました。参加者には、各キャンプ地で ACTION が実施しているプロジェクトへの作業に参加してもらった他、ホームステイや子どもたちとの交流イベント等を実施しました。

ジャイラホームワークキャンプ

2月3日～2月23日

24人参加(女性21人、男性3人)：幼稚園の設置作業に参加

3月3日～3月23日

27人参加(女性20人、男性7人)：幼稚園の設置作業に参加

8月1日～8月21日

28人参加(女性21人、男性7人)：幼稚園の設置作業に参加

9月1日～9月21日

25人参加(女性16人、男性9人)：幼稚園の設置作業に参加



8月キャンプでの小中学校生徒との交流会

バリウェットワークキャンプ

2月15日～3月7日

16人参加(女性10人、男性6人)：デイケアセンター設置・21世紀の森管理作業に参加

8月25日～9月14日

18人参加(女性11人、男性7人)：21世紀の森管理作業に参加

イバホームステイワークキャンプ

3月5日～3月25日

7人参加(女性5人、男性2人)

コミュニティーホール設置作業に参加

9月3日～9月23日

26人参加(女性22人、男性4人)

コミュニティーホール設置作業に参加



3月キャンプのお別れ会の様子

2. 国内事業

ビデオ交換文化交流プロジェクト

バライバイ再定住区のヘスースマグサイサイ高校の3年生と、武蔵野第三中学校の3年生がビデオと文通を通し、文化交流を行いました。日本の武蔵野三中では当会代表が年間を通じて講師をしている「選択社会化」の授業の中でフィリピンの関してのレクチャーやビデオレターのプログラムを実施しています。三中の生徒達は最初こそ始めてのビデオレターに戸惑っている面もありましたが、今では文通がビデオに写るとしっかり相手の名前を「　　ちゃんだ！」と呼んでいます。相手のバライバイの生徒達は、テレビやニュースだけでは分からなかった自分と年代代の日本の友達を持つ事が出来て、非常に楽しんでくれたようです。現地では学校の授業カリキュラムとは関係なく、希望者のみを対象としたのですが、学校側からもご理解を頂き、多くの生徒達が参加してくれました。日本の若者がどう生活しているのか、学校はどうなっているのか等について理解を深めることができただけでなく、フィリピンという自分の国や学校について説明する事で、同時に自分たち自身についても学ぶ機会となったようでした。最後の授業は卒業後の3月にJICAネットというテレビ電話会議システムを活用して、JICA東京とJICAMニラの事務所で生徒お互いが対面する授業を企画しています。

* この授業の詳細については武蔵野市国際交流協会発行の「わーい！教室にNGOがやってきた！」(800円)をぜひご購入下さい！

バスケットボール寄附

江戸川区立大杉第2小学校の子どもたちがフリーマーケットで集めたお金で購入したバスケットボールを、ジャイラホーム、バライバイ高校、バライバイ小学校、バリウェット集落に寄与しました。ジャイラホームではホーム内の子ども用だけではなく、地域の若者や交流のある教会にも寄附を行い、多くの人々がバスケットを楽しむ事が出来ました。また、バリウェット集落ではご寄附頂いたボールを使って近隣の集落との対抗戦も実施しています。

写真展「フィリピンに想いを寄せて」開催

7月19日～20日の二日間にかけて写真展を開催しました。この写真展は、フィリピンの子どもたちの様子、ワークキャンプで自分たちが見たり感じたりしたこと、アクションの活動などをより多くの人達にも知っていただきたいと思い企画しました。

写真展を企画するにあたり、どのような形で表現したら、今までフィリピンの子供達やアクションのことについて知らなかった人達に、私たちの想いを伝える事ができるだろうかといろいろと意見を出し合いました。やはり自分たちの目で見えてきたことを出来るだけそのままに近い状態で伝えるのが良いだろうと考え、写真展というかたちで開催する事となりました。展示する写真は事務局に由来からあったものに加え、ワークキャンプ参加者から写真を募集し約20点を準備しました。写真展には通りすがりで立ち寄った人から、フィリピンで別の活動を行っている人、過去ワークキャンプに参加した人など多くの人に来ていただきました。開催期間中はワークキャンプの事前研修会と重なっていたこともありこれからキャンプに参加をする方々が多く見に来てくれ、これから行くフィリピンに想いを寄せていました。この写真展をきっかけにフィリピンや子ども達のことに関心や興味を抱く人が増えていくと良いな

と思います。今回の写真展では発表できなかった写真、頂いた感想、自分たちの想いをこめて、これからもアクションの活動やフィリピンでの体験を伝えていきたいと思います。この写真展の開催に際しては、武蔵野市から助成金を頂きました。このことによって、より地域の方々に私たちの活動を知ってもらい、公益性を上げることができたのではないかと思います。

国際協力フェスティバルへの参加

10月4・5日に日比谷公園にて実施された国際協力フェスティバルにACTIONとしてブースを出しました。この国際協力フェスティバルは日本最大のイベントでJICAやJBICといった行政機関からNGOまで様々な団体が参加をします。ACTIONとして今回ははじめての出展でした。

新しいキャンパーにもACTIONブースの当日ボランティアに参加してもらおうと思い募集したところ、予想以上に沢山の方が集まってくれました。中には熱いメールを送ってくれた方もいて、誰かを選ぶことは出来なかったのが結局全員の方に少しずつブースのお手伝いをさせていただく事にしました。キャンプのすぐ後だったと言う事もあるとは思いますが、何かをしたいという皆さんの意識を感じました。必ずしも成功したとは言えないかもしれませんが、この第1回目の色々な反省点は来年出店してくれる人にしっかり伝わるようにしたいと思います。

ACTION続けてますか？セミナー&実践編

金曜日事務局スタッフが中心となり現在国際協力業界で働いているACTIONの会員や関係者をゲストとして招き、ワークショップや講演を通して様々なことを学ぶ「ACTION続けてますか？」セミナーを下記の通り開催しました。3回のセミナーを通して学んだことを踏まえて学生という立場でどんな事ができるのか？そして実施するためにはどんなことをすればいいのかを具体的にプログラムにするための実践編も実施しました。実践編では3グループに分かれそれぞれのグループ毎に様々な企画を進めています。このセミナーは今年度も継続予定です。

第一回：石田美帆さん（JBIC・国際協力銀行）参加者26名

第二回：庄司啓太郎さん（ACTION理事、パシフィックコンサルタンツ株式会社）参加者12名

第三回：内山綾子さん（国際協力NGOソシア代表）参加者30名

実践編：中山義規さん（ACTION理事、JICAジュニア専門員）

庄司啓太郎さん（ACTION理事、パシフィックコンサルタンツ株式会社）

横田千映子さん（ACTION理事、JICA・国際協力機構）

参加者30名

学校教育への学生ボランティア派遣

今年度は小学校～高校まで多くの学校で国際理解や総合学習の授業を実施した年でした。昨年までは

代表が一人でいく場合が多かったのですが「自分達の経験を人に伝える事によってフィリピンの事を知って欲しい。」という参加者達の伝えたい気持ちと、若い人の経験をこどもたちに共有させて欲しいという学校側の希望が一致したため学生ボランティアの派遣となりました。今年度は以下の学校に学生のボランティアを派遣しました。各学校では学生とこどもたちが少人数のグループを作り、意見交換やワークショップ、ゲーム等を行いこどもたちも積極的に質問をしている姿が見受けられました。学生自身も年齢に合わせた説明のしかたや伝えることの難しさを肌で感じており、その経験を活かしてよりよい授業にしていくために今後も継続的に活動して欲しいと思います。

～平成15年度学生ボランティア派遣実績～

江戸川区立大杉第二小学校（7名）
武蔵野市立第三中学校（4名）
武蔵野市立第一小学校（10名）
東京都立鷺宮高等学校（21名）
西東京私立東小学校（15名）

朝陽学園ボランティア派遣

昨年に引き続き今年度も三鷹市にある児童養護施設朝陽学園にボランティア派遣しました。ボランティア派遣項目は以下の通りです。

週末遊びボランティア（通年）
公文採点ボランティア（通年）
どんと焼き
こども祭り
岩井海水浴場付き添い
朝陽学園バザー
クリスマスパーティー
スキー教室付き添い

朝陽学園の鈴木さんには春・夏のワークキャンプ事後研修に「日本のこどもたちの現状と児童養護施設の歴史」についてレクチャーをして頂きました。キャンプ参加者はフィリピンへ目が行きがちですが、日本のこどもの問題を知ることにより自分達の足元から見つめなおす事が出来たと思います。朝陽学園のボランティアはMLへの登録という形をとっており現在の登録者数は37名です。より多くの方の参加をお待ちしています。

平成16年度事業計画・収支予算書

特定非営利活動法人ACTION

1. 海外事業

本年度の海外事業は昨年度に引き続き、フィリピン共和国サンバレス州を中心として実施することを計画しています。

発展途上国における児童関連施設改善事業

ニニョスパグアサセンター改修事業

(サンバレス州オロンガポ市オールドカバラン町ニニョスパグアサセンター)

昨年度までも改修作業を実施してきた聾啞者施設ニニョスパグアサセンターでのプロジェクトですが、本年度も老朽化した施設の改修を行うことを計画しています。現在の予定では具体的に、新たに施設に2階部分を設置する作業を行う計画です。

ジャイラホーム敷地整備事業

(サンバレス州カスティリヤホス行政区マグサイサイ町ジャイラホーム)

当会で平成4年に改修したジャイラホームを囲む壁が傷んでおりその改修を行います。また、敷地内へ幼稚園を設置したことにより子どもたちへの危険の配慮から工事用の作業員やバスが通る道を変更します。その為に、現在ある橋を取り壊し、新たな道を設置する計画です。

発展途上国における貧困地域の保健衛生環境改善事業

薬草によるアエタ族の初期治療手段確立プロジェクト

(サンバレス州サンマルセリーノ行政区サンタフェ町バリウエット集落)

アエタ族が元来利用してきた薬草を主な手段として、バリウエット集落での初期治療手段を確立することを目的とした本プロジェクトは本年で5カ年計画の最後の年となります。昨年度と同様に、集落の女性組織 SAKAKA(Samahang Katutubo parasa Kalusugan=先住民族健康組合)が今後も初期治療を実施していくことを可能とするための持続性の確保を重点とし、主に下記の3つの活動を実施します。

1. 自己資金確保の取り組み…SAKAKA 引継ぎ後に活動を継続していく運営資金の確保を目的として薬草を原料とする石鹸作成とバナナの販売を実施。フィリピンの政府機関である貿易産業省や科学技術省と協力し、ハーブ石鹸の販路拡大に必要な BFAD 認証を取得する。その後、マニラや近隣の店舗と提携して定期的な販売を開始することを計画。また、SAKAKA の作業センターとなる建物をバリウエット集落に建設する。
2. 組織の意思決定のための取り組み…SAKAKA が今後初期治療実践の主体者となるためのリーダーシップや組織運営についてのトレーニングを実施。外部ファシリテーターに委託して3月まで毎月実施。
3. SAKAKA をモデルとする他集落での初期治療普及…平成14年度小薬草園を設置した内の6集落で SAKAKA をモデルとした組織作りと石鹸作成指導を実施。

SAKAKA に関しては BFAD 認証取得と販路の確保まで当会で協力し、この手続き終了後に本プロジェクトを完全に引き継ぐ計画です。具体的に5月前後に完全な引継ぎを行うことを計画しています。また、3の他集落での取り組みでは、SAKAKA の認証取得後に、各集落もこの SAKAKA の一部としてハーブ石

餾の作成と販売を行うことを計画しています。引継ぎ終了後も当会スタッフが定期的にバリウェット集落で状況の確認を実施、他集落に関しては毎月一回のヘルスワーカーミーティングを通年で実施することでフォローアップを行っていきます。本プロジェクトは3月まで国際開発救援財団の平成15年度民間海外活動に対する助成金を頂いて実施します。

先住民族のための果樹植林技術指導(21世紀の森プロジェクト)

(サンパレス州サンマルセリーノ行政区サンタフェ町バリウェット集落)

緑化による所得向上を目的として、アエタ族の青少年組織 KAB(Kabataan Action ng Baliwet=バリウェット青年の行動)への技術指導を実施し、3.5ヘクタールの果樹園の管理を行う本プロジェクトは平成11年からの継続事業で、本年度で5年目を迎えます。昨年度までの計画では本年度中にKABへの引継ぎを行う予定でしたが、収穫に課題が見られることから、1年間延長して指導を継続します。今後のKABの自立を踏まえ、KABが独自で自己資金を確保できるための収益の増加を重点として、本年度は下記の3つの活動を実施します。

1. 果樹園管理と技術指導…これまでに設置した3.5ヘクタールの果樹園(バナナ・マンゴー・カシューナッツ・ココナッツ・野菜)の管理と技術指導を実施。水牛による耕作や堆肥の作成・混入の指導を実施し、収穫の増加を図る。
2. リーダーシップ・組織運営・会計トレーニング…今後KABが自立して運営を行っていくためのトレーニング。外部ファシリテーターに委託して実施し、KABメンバーが組織に必要な基礎的な知識を取得していくことを目的。
3. 山羊飼育…本年度からの新たな取り組みで山羊の飼育指導をKABメンバーに実施。果樹園管理資金や今後のKAB独自の活動の資金を捻出することを目的。

昨年度までの取り組みで、KABの中心となる青年メンバーの意識化に成果が見られ、彼らが自分達のプロジェクトとして本プロジェクトを捉え、自主的にミーティングを実施したり、管理活動を各自で分担して行うようになった等の成果も見られています。しかし、今後の引継ぎを踏まえた場合、活動の中心となる果樹園の収穫を中心としてKABの自己資金を増加させることはKABの持続性の強化に不可欠な課題となります。そこで、上記の3つの活動を中心として、この課題の改善に取り組む計画です。

本プロジェクトは6月まで郵政公社の平成15年度国際ボランティア貯金配分金を頂いて実施します。

水道設置プロジェクト

(サンパレス州サンマルセリーノ行政区サンタフェ町バリウェット集落)

現在のバリウェット集落には水道ポンプが1つしか無いため、集落の住民はこのポンプのある教会付近や川まで傾斜のある土地を1日に何度も往復している状況です。そこで、集落中心部に数個の水道を設置するのが本プロジェクトです。集落住民と当会のワークキャンプ参加者による作業を計画しています。

アエタ族の薬樹栽培技術取得のためのモデルファーム設置プロジェクト

(サンパレス州サンマルセリーノ行政区サンタフェ町バリウェット集落)

昨年度10月から開始した本プロジェクトは、火山灰でも育ち、販路が確保しやすいサンボン・ラグ

ンディ等の薬樹栽培をアエタ族の新たな生業として普及し、持続的な生業の確保とそれに伴う所得の向上を目的とするものです。本年度は主に下記の3つの活動を実施します。

1. モデルファームの設置…住民への栽培指導と苗木供給の場となるモデルファームの設置。水道タンク・スプリンクラー・苗床・堆肥小屋・フェンス・スタッフハウス・乾燥施設を設置し、2ヘクタールのエリアにサンボン・ラグンディ・チャングバットを植えつけて管理を行う。この収穫は次年度以降のファームの管理費となる他、各集落への堆肥小屋の設置等住民への栽培普及への資金となる。
2. 住民への栽培技術指導と栽培普及…バリウエット・ブアグ・バナバ集落住民希望者を対象に薬樹栽培のトレーニングを実施。これを経て住民間での栽培も開始し、当会スタッフが定期的にモニタリングと技術指導を実施する。
3. 販路の確保…提携団体の FOCUS と共同で薬樹を扱う企業と交渉し、モデルファームの収穫及び住民栽培の収穫の定期的な販路を確保する。

多くのアエタ族集落で見られる課題が、火山灰に覆われた土壌で十分な作物が育たない、たとえ育つものでも平地に比べると競争力を持たず、十分な収益が得られないというものです。これに対し、薬樹栽培は火山灰でも生育が可能であり販路が安定しているという利点があり、またこれを引き取る企業側も広大でかつ環境汚染が無いエリアを必要としているというように、両者のニーズが合致しているものです。このプロジェクトにより、アエタ族の新たな生業として薬樹栽培が普及し、各住民の持続的な生業の確保と所得の向上や、これを他集落でも薬樹栽培を普及するためのモデルとなる等が期待されています。本プロジェクトは10月まで外務省の平成15年度日本 NGO 支援無償資金協力を頂いて実施します。

ニニョスパグアサセンター医療サービス支援プロジェクト

(サンバレス州オロンガボ市オールドカバラン町ニニョスパグアサセンター)

本プロジェクトは聾啞者施設のニニョスパグアサセンターが実施している医療サービスへの支援を行うものです。これは具体的に、口蓋裂や水頭症の手術費用の支援を行うもので、2月と4月に手術を予定している約100名の患者を対象としています。

本プロジェクトは、西日本新聞旅行社と共同で実施したスタディツアー参加者の松元様を中心とした協力者の方々から昨年度頂いた48万円を基にして実施します。

発展途上国における貧困地域の教育環境改善事業

幼稚園建設プロジェクト

(サンバレス州カスティリヤホス行政区マグサイサイ町ジャイラホーム)

昨年度から継続の本プロジェクトは、ジャイラホーム及び近隣のこどもたちへの教育の普及を目的として幼稚園の建物を設置するものです。本年度は内装作業が主な内容となり、本年度中の完成を予定しています。幼稚園の完成後は、ジャイラホームによる園の運営が開始される計画です。

コミュニティホール建設プロジェクト

(サンバレス州イバ市アムンガン町)

平成 14 年度からの継続事業である本プロジェクトでは、本年度も引き続き地域の住民の職業訓練や学習の場として利用されることを目的とするコミュニティホールの建設を実施します。昨年度までと同様に、3月と9月にホームステイワークキャンプを実施して、ワークキャンプ参加者と現地の住民が作業を実施します。具体的に、2階部分の建設と敷地の整備を行っていくことが予定されています。また、6月の新学期を目処として、ダイケアセンターを開設するための1階部分の整備を行うことも計画しています。本プロジェクトは次年度春の完成を予定しています。

balan g a i r a - n i n g s e n t e r 支 援 プ ロ ジ ェ ク ト

(サンバレス州サンアントニオ行政区イーストディリタ町)

昨年度に教材を提供したイーストディリタ町で、本年度はダイケアセンターと青少年会議場兼ラーニングセンターとなっている建物2軒の改修作業を実施します。作業は3月からの実施を予定しており、また本プロジェクトにあわせて、3月のジャイラホームワークキャンプ参加者は同町にてホームステイを実施して作業に参加することも計画しています。

事業費は、ダイケアセンターが床の修理費用として37,000ペソ、ラーニングセンターが床の修理費用と天井の取替え費用として63,000ペソを予定しています。

国際ボランティア体験事業

本年度も昨年度までと同様に、ジャイラホーム・パリウエット集落・イバにおいて計8回のワークキャンプを実施する計画です。各キャンプの参加者はそれぞれのプロジェクト地で実施中の作業に参加する他、ホームステイや交流会等のイベントも実施していく予定です。実施は2~3月と8~9月を予定しています。

*上記全ての事業計画はあくまでも予定であり、資金状況、世界情勢等により変更する可能性があるの
のでご了承下さい。また、各事業とも随時スポンサーを募集していますのでぜひ、ご協力下さい。よろし
くお願いします。

2. 国内事業

国内事業に関しましては、昨年実施した全事業を実施するほか、よりいっそう他団体や行政との連携を強化していきます。また、1月より東京事務局において有給非専従職員を増員した事に伴い、会員管理や会計、ボランティア派遣等をより充実させていく予定です。